

【報告】

「時計台棟書店」：新たな学生選書イベントの試み：選書ツアーと比較して

筋田 千春

(学術情報課図書情報係)

林田 幸子

(学術情報課雑誌情報係)

山本 順也

(学術情報課電子情報係)

三浦 翔子

(学術情報課図書情報係)

小野 佳名子

(学術情報課利用者サービス係)

金井 朗子

(学術情報課目録情報係)

堀越 香織

(学術情報課図書情報係)

一橋大学学術・図書部

1. はじめに

一橋大学附属図書館（以下「当館」という）では、平成25年度から読書推進活動の一環として学生協働型のイベントを企画・開催している。講師がテーマに沿って自著を紹介し参加者と交流する「ブックトーク¹⁾」や、学生が書店の店頭で選書を行う「選書ツアー（ブック・ハンティング）²⁾」などがそれにあたる。平成28年度からは、一橋大学の第3期中期目標「学問への憧れと志を高め学生の主体的学修活動を引き出す」に基づき、読書推進活動のさらなる促進について検討を始めている。

平成28年度冬学期は、選書ツアーに代わる学生選書イベントとして、新たに「時計台棟書店」と題する学内での選書会を開催した。選書会の会場には、図書館入口手前の時計台棟119室（現「図書館セミナールーム」、以下現在の名称を使用する）を使用し、書店が見計らい扱いで搬入した図書のなかから、学生が「図書館に入りたい」と思うものを選ぶという形

式をとった。会期は5日間とし、開催中は会場に図書館職員が常駐した。企画運営は、当館の図書館利活用ワーキング・グループ（以下「WG」という）が主体としてあたった。

以下、新たなイベントを企画立案した経緯と運営について振り返ったうえで、選書会の成果と今後の課題について報告する。

2. 選書会の概要

タイトル	高本善四郎氏図書助成金 ³ 読書推進事業「時計台棟書店～秋の学生選書会～」
会期	平成28年11月14日(月)～18日(金) 12:00～16:30 (18日のみ 12:00～15:00)
会場	一橋大学時計台棟1階 図書館セミナールーム
対象者	本学学部学生および大学院学生
対象資料数	243冊
選書資料数	84冊
延べ参加者数	250名
投票総数	986票

3. 従来の学生選書イベントの課題

学生選書イベントは、平成25年度から平成28年度夏学期までに6回開催された。6回とも、学生が書店を訪問して店頭で選書を行う形式であり、これを選書ツアーと称した。選書ツアーは大型書店を会場としたことで、参加学生に「多種多様な本に触れる楽しさ」を提供することができた。同行する図書館職員にとっては学生と対話ができる貴重な場であり、学生の日常の読書傾向や図書館サービスに対する希望を吸い上げる機会ともなった。

一方で選書ツアーには、参加者の募集が難しいという課題が存在した。初回こそ7名の参加があったものの、2回目以降は5名前後の参加にとどまり、また、回を重ねるにつれ参加経験者の再応募が見られ、新規の参加者が集まりにくい状況であった。参加者が限られた状況では選書内容が偏りがちになる恐れがあり、また、図書館に対する多様な意見を求めることも困難となる。そのため、選書イベントがその役割を果たすためには、より広く参加者を募る必要があった。

3.1. 学生との意見交換

選書ツアーでは、参加学生との懇談会を行っていた。平成28年度夏学期の参加学生に参加者の募集および広報について意見や感想を求めたところ、「イベント自体の認知度が低い」ため広報を行っても情報が伝わりにくい」「イベントを知っていても参加はハードルが高い」という声があった。また、図書館への要望やアイデアの聴き取りのうち、選書イベントに関して、「学生が集まって選書を行う会を催したい」「あらかじめ選定されたおすすめ本に投票する方式にしてはどうか」「アンケート形式で図書館に入れてほしい本を募ってはどうか」などのアイデアが出された。

3.2. 発想の転換

前述の意見やアイデアを受けて、WGでは冬学期の学生選書イベントを選書ツアーとは異なる形式で開催することを検討した。

目標は、より多くの学生が気軽に参加できるイベントづくりである。案として、「図書館利用者から選書イベント参加者を抽選」「選書イベント参加権を図書館脱出ゲームの賞品とする」「アンケート形式での選書」「書店の見計らい制度を利用した館内での選書会」などが挙げられた。

その中でも、いわば「書店が図書館に来る」館内選書会が、最も学生へのアピールが強く、参加者の増加が見込めるのではという結論に至った。書店が対応可能であるか、他大学での選書会実施状況はどうかなど、いくつかの要素についてさらに検討を重ね、実施可能との感触を得て、冬学期の学生選書イベントを選書会形式で開催することに決定した。ツアー形式に比べ選書の母数が少なくなる点が懸念されたが、品薄感が出ないように本の展示方法を工夫するなどして対応することとした。

4. 企画・準備

4.1. 書店の選定

選書会は当館では初めての企画であり、開催には協力書店とのスムーズな連携が必須であった。そのため、協力書店はすでに当館と取引のある書店から選定することとした。数社に相談をしたうえで、「他大学で選書会の実施実績がある」「選書ツアーでの連携実績がある」という点から、紀伊國屋書店を協力書店に選定した。

4.2. 持ち込み図書の選定

紀伊國屋書店の提案は「キノコレ」という図書館職員向け見計らい選書システムを応用するものであった⁴。通常、見計らいで持ち込む量は購入金額の2倍程度とのことであったが、持ち込み冊数の多寡は選書会の成功に大きく影響する要である。初めての開催であるため、参加する学生が選書会に求める規模感、どの程度のボリュームや多様性を選書対象図書に求めるのかが不明であった。その状況下でできるだけ学生の満足度を上げるために、品揃えは可能な限り豊かにしておきたいと考えた。そこで書店と交渉を行い、実際の購入額のおよそ3倍まで持ち込む量を増やすことになった。予算額は200,000円だったため、持ち込まれた図書は約600,000円分である。

持ち込み図書は、書店による大まかな抽出と館内での精選によって選定した。

まずは図書館が指定した分野、冊数、刊行年などの条件を元に、書店は持ち込み予定冊数の数倍の候補を抽出した。この抽出条件については、WGで検討を行った。学生が選書対象とする持ち込み冊数は、選書ツアーと比較するとどうしても少なくなる。そのため、分野を絞り、それぞれの分野でなるべく多数の図書が並ぶ状態にするという方針を決めた。

分野の絞り込みに関しては学生からのヒアリングも行った。過去に選書ツアーに参加した学生や当館でアルバイトをしている学生に対して、「選書会に持ってきてほしい分野・タイトル」「当館の図書を利用して足りないと思う分野」といった内容でアンケートをとった。希望するジャンルとしては、「文学」「コンピューター・コンピューター実用書」という声が多かった。具体的なタイトルも挙げてもらったが、委託販売制をとらない出版社のものなど見計らいとして持ち込むことができないタイトルが多かった。

WGでの協議、アンケート結果、館内ミーティングでの意見を踏まえ、下記の通りの分野を抽出条件とした。

1) 芸術分野

美術
デザイン
美術作品
音楽
映画・演劇・その他の芸術

2) 自然科学・工学分野

自然科学一般

数学
物理学
天文学・地学
化学
工学全般
コンピューター・情報科学
土木・建築
生命科学
農学

冊数は1)、2)でおよそ半々ずつ、刊行年は新刊～過去4、5年以内、さらに「専門的な学術書は除く」「文庫、新書を含む」という条件を付して候補抽出を依頼した。また、当館の学生選書傾向の参考として、選書ツアーで購入した図書のリストを書店に提供した。

館内での精選は、「当館での所蔵を確認」ののち「学生選書の対象として適切か検討する」というプロセスを踏んだ。各分野をWGメンバー2～3名で担当し、各人の評価⁵を集約して書店にフィードバックを行い、数回の出し戻しを経て持ち込み図書を確定した。

出版点数は分野を限っても膨大であり、直近6ヶ月間刊行分だけで340冊となった。まずはその中から精選してみたところ、学生選書の対象としないタイトルが多く、持ち込み予定金額に達しなかった。そのため、最終的には1)、2)の分野で「大学図書館で売れ行きがよい2016年刊行の本」で候補を書店が作成し、そのなかから精選を行った。そこにあらかじめ他予算での購入候補として職員選書してあったもの及びWGメンバーによる候補タイトルのうち持ち込み可能なものを加え、243冊を決定した。

4.3. 会場およびイベント名称の決定

選書会の会場は、時計台棟1階の図書館セミナールームとした(図1, 写真1)。図書館の出入口手前という、通行量の多い廊下に面した絶好の立地にあり立ち寄りやすく、なおかつ施錠できる個室であり持ち込み図書の管理が可能という書店側の条件を満たすためである。

また、気軽に入れる会場づくりを目指して、書店を模した会場設営を試みた。その過程でイベントの名称も実際の書店を想起させる「○○堂」「○○書店」などとする案が挙げられた。最終的に、「実在の書店と混同する恐れがない」「学生にとって親しみやすい、分かりやす

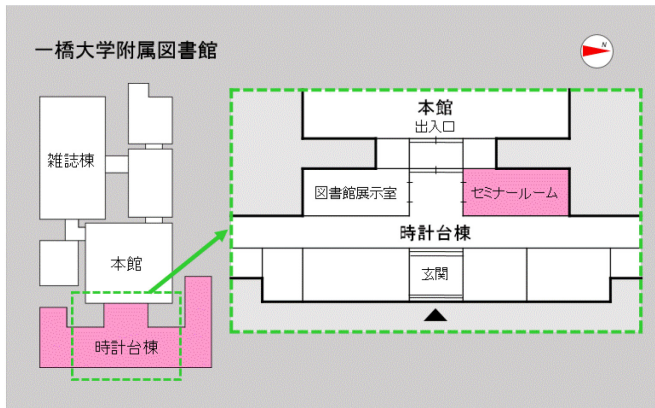


図1 会場位置



写真1 図書館セミナールーム入口

い」という点から、会場が位置する時計台棟の名前をとって「時計台棟書店」に決定した。なお、この名称は次回以降の選書会でも継続して使用し、イベントの周知浸透に役立てることとした。

4.4. イメージの決定

選書会では、あらかじめイベント全体のイメージを決定し、それに沿った会場演出や広報を行うことで訴求力の向上を図ることとした。会場のある時計台棟は昭和5年に竣工し、西キャンパス中央に位置する本学のシンボリックな建造物である。そのため、選書会でも時計台棟の雰囲気そのままを活かし、レトロで落ち着いた雰囲気を共通イメージとすることに決定した。

4.5. 設営

会場内には、学生が参加しやすい雰囲気を作る工夫を施した。図書館セミナールームは選



写真2 会場のレイアウト

写真3 選書会の趣旨を紹介するボード
「時計台棟書店ができるまで」

書会の規模に比して広いため、室内の中ほどをパーティションで区切り、部屋の手前部分のみを使用することで、こじんまりとして親密な空間を作った（写真2）。その上で本棚の位置を入口の正面とし、参加者の動線を意識して半円形に並べ、それに合わせて、机、椅子、スツールも配置した。什器類の色は、白、茶、グレーを基調とし統一感を出した。室内にはBGMを流し、参加者がゆったりと選書できる環境を整えた。これは、書店を模した会場演出の一環でもあった。選書の妨げとならないように、BGMには落ち着いた曲調でヴォーカルなしのジャズを採用した。再生には小型の音楽プレイヤーとスピーカーを使用し、什器の配置を終えた段階で会場での試聴を行って、適切な音量を確認した。

また、選書会の趣旨を紹介するボード「時計台棟書店ができるまで」（写真3）を作成し、会場内に設置した。ボードは写真撮影自由として宣伝効果を狙った。

5. 開催と展示

5.1. 選書方法

参加者が実際の書店で本を選ぶような感覚で選書できるよう、持ち込み図書を分野別に棚に並べ、手に取って中身を見られる形式にした。見計らい図書には通し番号を付与し、その番号と書名を記載した短冊を挟んだ。選書方法は投票とし、「読みたい」と思った図書の通し番号を10点まで投票用紙に記入することとした（文末資料1参照）。投票用紙は無記名であるが、所属学部と区分（学部生か大学院生か）のチェック欄を設けた。併せて、一押し本へのコメントや、選書会に関するコメントの記入欄を設けた。前者はブクログ等での紹介に利用し、後者は今後の企画運営の参考とするためである。

5.2. 開催当日の体制

開催時間は、学生の来場が多く見込まれる12:00～16:30（最終日のみ15:00まで）に設定した。開催中は、選書方法の説明等の来場者対応や、図書の紛失防止のために、図書館職員を1名「店番」として常時配置した。「店番」については、WGメンバーの他、館内職員から有志を募った。また、学内ワークスタディ事業で雇用している学生アルバイト4名にも、1回（1.5時間）当番を割り当てた。「店番」全員が来場者に対して一定の対応ができるよう、業務のマニュアルと想定問答集を作成した。各日の終了後には、最後の時間帯に「店番」にあたった職員がその日の投票数の集計を行った。

なお、学生を「店番」に採用したことに関しては、本人が投票に参加するだけでなく、見

かけた友人も参加するという思わぬ効果があった。

5.3. 購入図書の決定

投票の集計結果を踏まえ、得票数が上位の図書を購入した。購入冊数についてはあらかじめ上限を定めず、予算額に達するまで購入した。なお、ボーダーライン上の同じ得票数の図書は、投票用紙に一押しコメントが記入されたものを購入した。また、得票数が上位であっても、イベント期間中に別の予算で購入されたものなど、すでに当館で所蔵している図書については購入しないこととした。最終的に購入したのは84冊 200,364円分である。

5.4. 選定図書の展示

購入した図書は、受入・整理後、図書館本館1階に設けられている読書スペース「Yomocca（よもっか）」に配架した（写真4）。これらの図書は一般の蔵書と同様に整理後、展示図書用の装備を行った。具体的には、本のジャケットを付けたままで、選書会で選ばれた本である旨を記載したラベルを貼付した。さらに、のりを使わずにブックカバーをかけることができる機械「コリブリ」を用いてビニールのブックカバーをかけている（写真5）。

図書の他にも、選書会会場に置いたボード「時計台棟書店ができるまで」を縮小し、選書会後の情報を追加したパネルを本棚付近に展示した。

なお、選書ツアー開催時は、参加者自身が書いた一押し本のPOPを図書と一緒に展示していたが、今回の選書会ではPOP作成は見送った。次回選書会開催の際には、POP作成についても検討したい。



写真4 Yomocca での展示風景



写真5 選書本の装備

6. 広報

選書会においては、イメージ戦略を重視し、広報にも注力した。広報活動は、あらかじめWG内で共有したイメージを軸に行った。

6.1. ロゴの作成

選書会のシンボルとなるロゴは、時計台棟が持つ「歴史を感じるレトロな空間」というイメージに合わせて作成し、一貫して広報に使用した（図2）。ロゴは職員が手書きでデザインした。



図2 時計台棟書店ロゴ

ロゴは主として看板・ポスターに使用し、「時計台棟書店～秋の学生選書会～」というイベントを利用者に周知浸透させるための宣伝・広報を目的として利用した。選書会の開催中は、看板、配布用の図書リスト、「店番」担当者の名札、投票用紙に使用した。また、購入図書展示の際に貼付するラベルにも使い、イベント全体に統一感を持たせた。

6.2. ポスター、広報誌 BELL

館内および学内に掲示したポスターは、会場入口の写真を加工して作成した（図3）。「時計台棟書店」のロゴを入れた基本のパターンに加え、利用者の目を一瞬でひきつけ、選書会への関心を得られるよう、「選ぶ人になろう。」「わたしの一冊が、みんなの一冊に。」など、WGメンバー考案のキャッチコピーを入れたバージョンを10種類作成した。これらは並べて掲示し、目を引き印象付けるよう工夫した（写真6）。

参加者からは「ポスターを見て来ました」「ポスターが並んでいるのが目立っていた」という声も聞かれたので、一定の効果があったと思われる。

ポスターの内容は図書館の広報誌 BELL にもそのまま掲載し、配布をした。



図3 選書会ポスター

6.3. Web サイト、SNS

図書館 Web サイト上の「図書館からのお知らせ」のほか、Twitter（計 24 件）、Facebook（計 7 件）など SNS での発信を行った。SNS では、準備の様相から開催中の様子、投票ランキング上位の本の紹介などを投稿した。特に開催期間中は 1 日に数回の投稿を行い、リアルタイムに情報発信をすることができた（写真 7）。

7. 評価・分析

7.1. 評価

選書会開催にあたっては、選書ツアー形式よりも気軽に、より多数の学生の参加を募ることを第一の目標とした。結果として、参加者は延べ 250 名を数え、総投票数は 986 票に上った。平成 28 年度夏学期の選書ツアー参加者が 6 名であったことを鑑みると、参加者の増大という目標は達成されたと言える。

選書会に対し、参加学生のコメントには「久しぶりに本が読みたくなりました」「こうい



写真6 キャッチコピー10種類を入れたポスター。それぞれに色やデザインを変えている

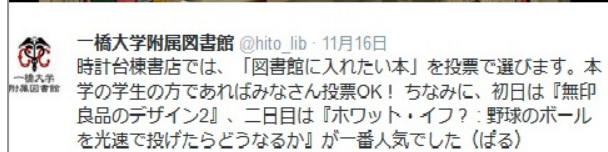


写真7 2016年11月16日のTwitter投稿

った形式のイベントは初めてでしたが、新鮮な出会いがありました」「ふだん授業でふれる以外のことにふれられて興味深かったです」などの意見があった（文末資料3参照）。そもそも選書イベントの目的は、学生の読書の幅を広げ、さらなる図書館活用への道筋をつける点にある。これらのコメントからは、選書会がこの目的の実現に対して役割を果たしたことがうかがえる。

また、「面白い試み」「こういう企画がおもしろいので次もぜひ」「内装も素敵で、またやってほしいと思います」というコメントがあり、WGとしても手応えを感じることができた。他方、「もっと本が増えると尚いいです」「洋書もあるといいと思う」との要望もあった。選書対象の充実は、今後の課題となる部分である。

7.2. 分析

今回の学生選書イベントは、選書ツアーから選書会へと、その形式を大きく変更した。以下、両者の比較により変更の効果を分析したい。

	平成 28 年度選書ツアー	平成 28 年度選書会
開催場所	ジュンク堂書店立川高島屋店	図書館セミナールーム
開催時間	5月18日 14:00～17:15 (計3時間15分、うち懇談会15分、POP作成会60分)	11月14日～17日 12:00～16:30 11月18日 12:00～15:00 (計21時間)
対象資料数	約100万冊(書店在庫)	243冊
選書資料数	130冊	84冊
参加者	6名	250名(延べ人数)

従来の選書ツアーは大型書店を会場とした。そのため選書対象は幅広い分野に及び、豊富な在庫から選書できるというメリットがあった。一方で、イベントの周知および参加者の募集が難しいという課題も存在した。特に困難だったのは参加者の募集である。参加しづらい原因としては、「拘束時間が長い」「実施書店までの移動が必要」「他の授業や学内イベントと日程が重なる」などが考えられた。

対して、選書会の最大のメリットは動員にあると言える。具体的には、「参加が容易である」「リピーターが生まれる」「参加者による宣伝効果が期待できる(口コミ、友人の同伴、SNSへの投稿など)」といった点である。これらのメリットは、学内を会場としたこと、参加時間

が随意であること、再来場が可能であることが生み出した効果であると考えられる。そのほか、選書会をきっかけとして図書館主催のイベント全体の認知度向上が望める効果がある。デメリットとしては、選書対象の冊数が少ない、書店が用意できない書籍があるといった、選書対象を限定せざるを得ない点が挙げられる。

業務上の観点から述べれば、選書ツアーと選書会では以下の違いが認められる。選書ツアーは書店を訪問する形式上、対象資料の選定や会場設営は不要である。その一方で、会場の下見、開催当日の移動と付き添いに充てる時間を必要とする。選書会では、会場演出や棚づくり全般を図書館職員が行う。また、選書会の要である選書対象図書の選定にも時間と労力がかかる。また、開催中は「店番」として人員を割く必要が生じる。

8. おわりに

選書会は当館で初めての試みだったため、事前準備にはかなりの労力が必要であった。事前準備のなかでも、選書会に持ち込む本の選定には特に苦労した。しかし、選書会を成功させる上で、当日書架に並ぶ本のラインナップは大変重要であり、この選定を丁寧に行っていくことが今後の選書会でも不可欠である。参加者からのアンケートでは「冊数を増やしたりテーマ別に実施してもいい」といった声も寄せられた。次回以降の選定の参考にしたい。

また、選書会の開催にあたっては、担当した職員それぞれが今までの経験や知識を存分に発揮して運営作業に取り組んだ。特に会場設営における空間づくりは、職員のこだわりが結集したものである。

さらに、会期中は「店番」の職員がその日に気づいたことや参加者から寄せられた声などを手元のノートに記録した。それを他の職員が共有することで、運営に即座に活かすことができた。WGの職員は自分の「店番」以外の時間にも会場に何度も足を運び、参加者の様子や、不足物や改善点などがないかを確認していた。このような各職員の選書会への強い思い入れも、今回の成功を支えた要因の一つと言えるだろう。

今後は、「選書会の規模を拡大させる」「テーマを設定して開催する」など、前述の学生からの要望やアイデアをうまく取り入れた開催方法を検討していきたい。そのためには、学生の生の声を積極的に収集する必要がある。収集方法としては、アンケート等の手法はもちろん、学生と協働してイベントを企画・運営するといった方法も効果的だと考えられる。

また、イベントの目的である読書推進をより確実に進めるために、選書本の展示会場となる読書スペース「Yomocca」という場を活性化させるような方策も検討していきたい。

- ¹ 田中梓, 菅原しおり, 山本順也, 鈴木宏子. 一橋大学附属図書館における新たな読書推進活動: 他機関・学生と連携したブックトークの実施報告. 一橋大学附属図書館研究開発室年報. 2015, 2, p. 64-78. <http://hdl.handle.net/10086/27547>, (参照 2017-03-17).
- ² 江沢美保, 菅原光. 一橋大学附属図書館における学生と連携した読書推進活動. 一橋大学附属図書館研究開発室年報. 2014, 3, p. 59-67. <http://hdl.handle.net/10086/26717>, (参照 2017-03-17).
- ³ 高本善四郎図書助成金とは、本学 OB である高本善四郎氏(昭和9年東京商科大学専門部卒業、ダイトエレクトロン株式会社名誉会長(当時))より平成14年に学生用図書購入資金として寄付されたものである。氏の寄付の趣旨に沿い、「本学の青年が読書を通して自己を形成し、学問の学びと喜びを深めるような資料を収集する」こととしている。学生選書イベントではこの助成金を活用し図書を購入している。
- ⁴ 関口千登世, 中村祥子, 伊藤陽子. 城西大学水田記念図書館におけるキノコレを利用した学生選書の取り組み. 薬学図書館. 2012, 57(2), p. 127-131. http://libir.josai.ac.jp/il/meta_pub/G0000284repository_JOS-YAKUTO57-2-p127, (参照 2017-03-17). のほか、Web を検索すると甲南女子大学図書館、神戸松蔭女子学院大学図書館などで実施実績があるようである。
- ⁵ WG メンバーは、担当したリストの図書について「ぜひ選書会に持ってきてほしい」「選書会に持ってこなくていい」というものにチェックを付けた。二つの評価を付ける分量の目安は、全体の 1/3 ずつとした。

[Report]

Welcome to the "Clock Tower Bookstore": a report on new book selection event at Hitotsubashi University Library, compared to book-hunting tours

Sujita, Chiharu.

Acquisition Section, Library Affairs Division, Department of Libraries and Information,
Hitotsubashi University

Hayashida, Sachiko.

Serials Section, Library Affairs Division, Department of Libraries and Information,
Hitotsubashi University

Yamamoto, Junya.

Digital Services Section, Library Affairs Division, Department of Libraries and
Information, Hitotsubashi University

Miura, Shoko.

Acquisition Section, Library Affairs Division, Department of Libraries and Information,
Hitotsubashi University

Ono, Kanako

Circulation Section, Library Affairs Division, Department of Libraries and Information,
Hitotsubashi University

Kanai, Akiko.

Cataloging Section, Library Affairs Division, Department of Libraries and Information,
Hitotsubashi University

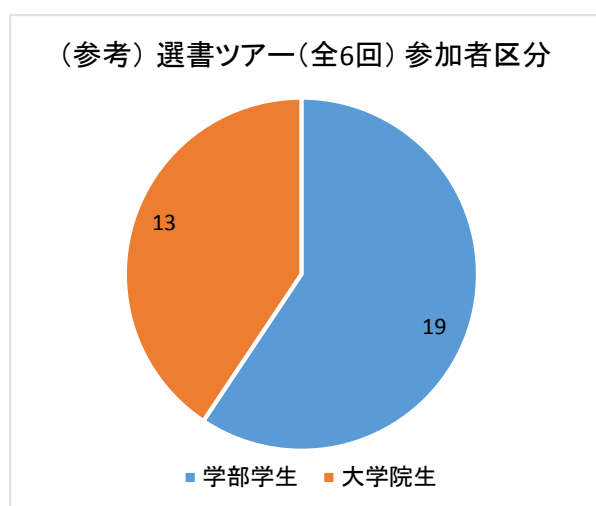
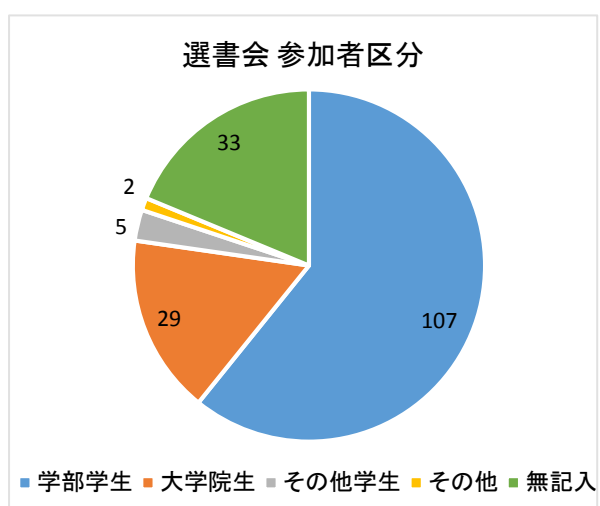
Horikoshi, Kaori.

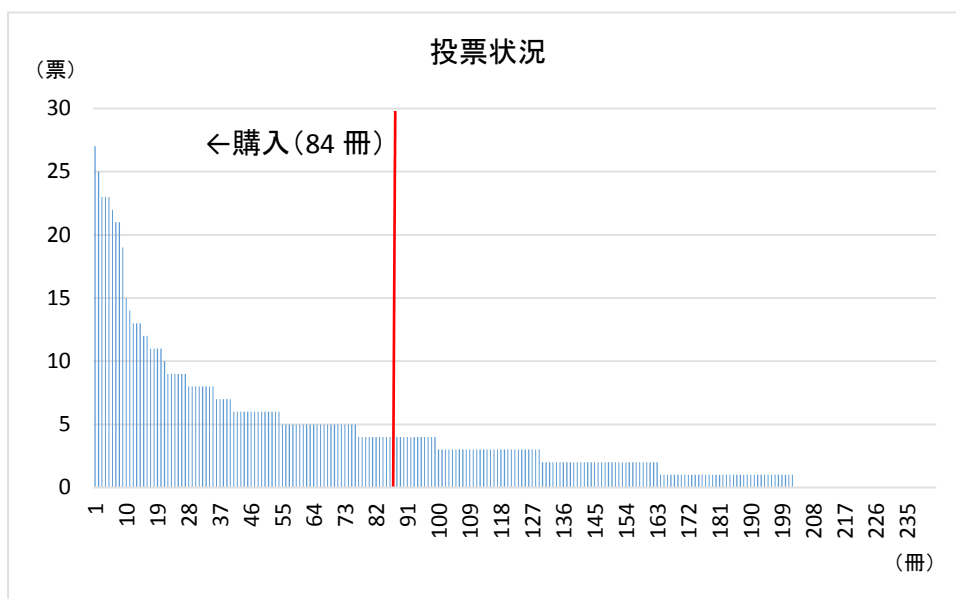
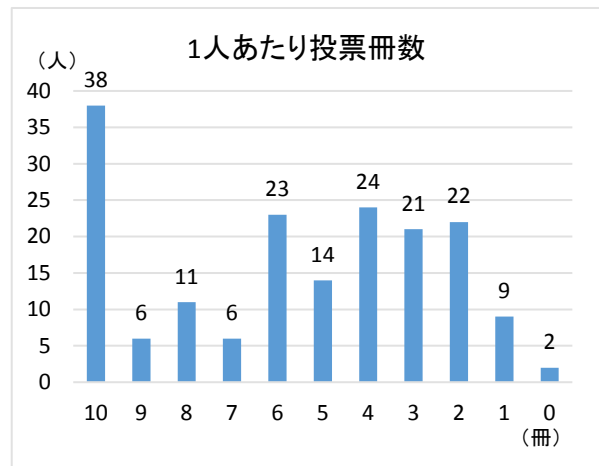
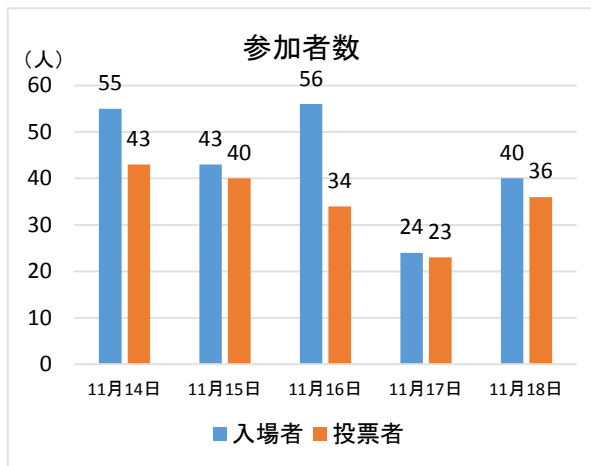
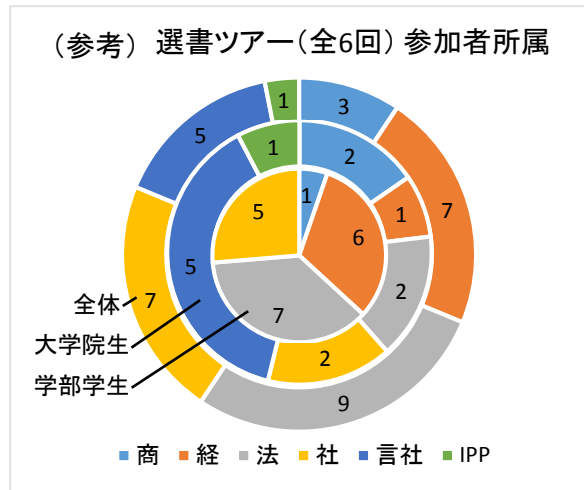
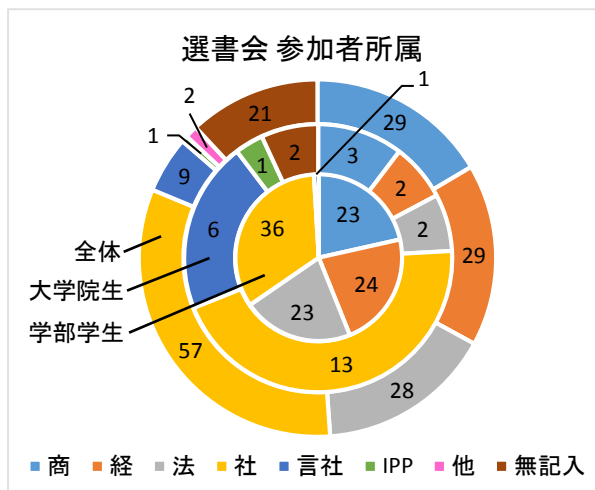
Acquisition Section, Library Affairs Division, Department of Libraries and Information,
Hitotsubashi University

資料1 投票用紙

投票用紙 時計台棟書店 「読みたい！」と思う本の番号を下記の枠内に記入してください(1人10冊まで)。 <table border="1" style="width: 100%; height: 200px; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 50%; height: 40px;"></td><td style="width: 50%; height: 40px;"></td></tr> <tr><td style="height: 40px;"></td><td style="height: 40px;"></td></tr> <tr><td style="height: 40px;"></td><td style="height: 40px;"></td></tr> <tr><td style="height: 40px;"></td><td style="height: 40px;"></td></tr> <tr><td style="height: 40px;"></td><td style="height: 40px;"></td></tr> </table>											あてはまるものに○をしてください。 所属: 商 経 法 社 言社 ICS IPP その他 区分: 学部生 大学院生 その他学生 選んだ中でイチオシの1冊についてコメントください!! 番号記入 ↓ 本の番号を記入 時計台棟書店への感想をヒトコト!! ※ご記入いただいたコメントは、本の紹介等に使用させていただく可能性があります。 ※図書館記入欄 集計済 ☐ コメント欄 ☐

資料2 データで見る選書会





資料3 投票用紙に記入された時計台棟書店への感想

所属 商=商学部・商学研究科 経=経済学部・経済学研究科 法=法学部・法学研究科
社=社会学部・社会学研究科 言社=言語社会研究科 IPP=国際・公共政策大学院

所属	区分	時計台棟書店への感想
法	学部生	こういった試みは面白いと思います！
商	学部生	面白い試みだと思います！
社	無記入	蔵書の少ない分野の本が多くてありがたいです。
社	学部生	面白いと思います。ただじっくりその場で読めないのが、面白そうで終わってしまうかも。
経	大学院生	1学期2回ぐらいの程度でやってほしい。
無記入	その他学生	美しい本が沢山あります
社	学部生	もっと本をふやしてほしい。
その他	学部生	おもしろい企画だと思います
商	学部生	雰囲気はとても良かったです 荷物を置ける所があればよりよかったです
法	学部生	良い試みだと思う。
法	学部生	気軽に見に来られてとても良いです
経	大学院生	おもしろそうな本を沢山集めていただき、ありがとうございます！
商	学部生	おしゃれで良いと思いました！ポスターのデザインもすてきです。
経	学部生	英語の本もおいてほしい。
商	大学院生	おもしろいですね。
社	学部生	とてもいい企画だと思います
社	学部生	BGMがお店ばくてすてき
社	学部生	内装も素敵で、またやってほしいと思います
商	学部生	普段目にしないような本を見て面白かった。
社	学部生	面白い試み、ここにある本をもっと置いて気軽に図書館で読みたい。
社	無記入	選べる本の数が少し少ないような・・・。
社	学部生	面白い試みだと思いました。もっと本が増えると尚いいです。
言社	無記入	もっと本かって！
社	無記入	この空間に入ったのは初めてだったが、とてもきれいで居心地が良く、大学ではなくおしゃれな雑貨店のような雰囲気が良かったです。
社	学部生	子供用の絵本があってもいいかもしれません
経	学部生	年一回ぐらいやってほしいです
社	学部生	貴重な機会をありがとうございます。
商	学部生	とても好きな試みです。
言社	大学院生	小さいけど音楽流れてるし本屋っぽいですね。
社	学部生	素敵な企画だと思います。
社	大学院生	ジャンル分けがされていて選びやすかったです。
社	大学院生	冊数を増やしたりテーマ別に実施してもいいかも。
法	無記入	結果を楽しみにしています。
法	学部生	面白い試みだと思います。
法	学部生	久しぶりに本が読みたくなりました。
商	学部生	面白い試みだと思いました。

社	学部生	知的好奇心がかきたてられる。
経	学部生	自分の本を買うのではなく、大学の本を選ぶのは新鮮でした。
経	学部生	英語の本も欲しい
経	学部生	面白い企画だと思った。
社	学部生	こういった形式のイベントは初めてでしたが、新鮮な出会いがありました。
社	大学院生	一瞬視野が広がります。
法	学部生	素敵な企画をどうも有難うございます！
商	学部生	すごくいい企画でした。スタッフもやさしいです！
社	無記入	ユニークな企画ですね。今後お願いします。
IPP	大学院生	とてもよい取組だと思います。興味の幅が広がりました。
社	学部生	展示の選書がすごいです。
言社	大学院生	検索できるタブレットがあれば便利
言社	大学院生	来年もよろしく
社	学部生	カテゴリーがすてき
経	学部生	いいと思います。
商	無記入	オシャレ
社	学部生	普段見ない分野の本にも、新しく手にとりやすそうな本がたくさんあって、選んだ方のこだわりを感じました。
社	学部生	配置や BGM などの雰囲気が素敵でした。開店までの経緯がまとめられているのは良い工夫だと思います。
商	学部生	おもしろい企画だと思いました。
社	学部生	・本数が少ない ・洋書もあるといいと思う→日本外の国での最近のトレンドなどに参考になると思う。 ・企画展もいいと思う (ex. フェミニズム、LGBT など)
法	学部生	分野が幅広く選書も興味深いものがたくさんあり、10冊にしばらくづらかった。図書館にはない新しくキャッチーな本が多かったと思う。
社	学部生	読書したくなります。専門書も面白そうだなと。
社	大学院生	素敵な企画です〆〆定期的に開催してほしいです。
商	学部生	流れている音楽が良い
商	学部生	色んなジャンルの本があっておもしろかったです!!
経	学部生	素通りしそうになったけれど、中に入っているいろいろ読んでみると面白かった。次回も楽しみにしています。
法	学部生	ふだん授業でふれる以外のことにふれられて興味深かったです。
社	無記入	自分が投票したからまして新しく図書館に入ってくる本に目を通すようになると思います！
法	学部生	名前がオシャレ
言社	大学院生	とても有意義な本をあつめて面白いと思います。
商	学部生	こういう企画がおもしろいので次もぜひ
経	学部生	面白かったです！
社	大学院生	普段は見ることのない本を手にとることができてよかった。
経	学部生	買って帰りたいような本が何冊もあった。
社	学部生	楽しい！
言社	無記入	とてもいい本を紹介してくださる場所、ありがたい存在です。
言社	大学院生	人文学の書籍が、ほぼ扱われていなかった（芸術を除いて）のが残念でした。